

詳細リスク評価書シリーズ5 短鎖塩素化パラフィン

正 誤 表

(2008年3月27日更新)

頁	行	誤	正
53	14	下限の 0.01% を安全側の設定	上限の 0.3% を安全側の設定
53	8	化学産業 (industrial category ; IC=3)	化学産業：合成に使用される化学製品 (industrial category ; IC=3)
93	24	Rieger <i>et al.</i> (1995) は,	Rieger and Ballschmiter (1995) は,
95	17	レイク・トラウトへの生物蓄積係数は 0.5 よりも低かった.	カジカ, レイク・トラウトへの生物蓄積係数 は 0.5 よりも低かった.
98	3	Campbell <i>et al.</i> (1980) は,	Campbell and McConell (1980) は,
98	8	Campbell <i>et al.</i> (1980) は,	Campbell and McConell (1980) は,
108	表 IV.21	河川底質中濃度 実測値 : 0.1966, 0.2111, 0.3847, 0.4844 (平均 0.319) $\mu\text{g}/\text{kg-wet}$ 90%信頼区間 : 0.060~1.48 $\mu\text{g}/\text{kg-wet}$ モデル推定値 : 0.289 $\mu\text{g}/\text{kg-wet}$	河川底質中濃度 実測値 : 0.1966, 0.2111, 0.3847, 0.4844 (平 均 0.319) $\text{mg}/\text{kg-wet}$ 90%信頼区間 : 0.060~1.48 $\text{mg}/\text{kg-wet}$ モデル推定値 : 0.289 $\text{mg}/\text{kg-wet}$
126	表 V.4	文献 Madeley & Thompson 1983a ¹⁾	文献 Madeley & Thompson 1983
127	4	EU リスク評価書ではこれは試験法に関 連するものではないと判断した.	EU リスク評価書ではこれは投与に関連する ものではないと判断した.
127	8	Madeley <i>et al.</i> (1983a) は	Madeley and Thompson (1983) は
130	表 V.6	エンドポイント 幼鳥の生存率	エンドポイント 胚の生存率
130	表 V.6	この減少は 20 組のうちのわずか 3 組に おいて, 幼鳥の生存率が極端に低かった ことによるものである.	この減少は 20 組のうちのわずか 3 組におい て, 胚の生存率が極端に低かったことによる ものである.
137	下から 6 ~8 行目	そして, 種間差の 10 と個人差の 10 の不 確実性係数を考慮して耐容 1 日摂取量 (Tolerable Daily Intake; TDI) を 100 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$ と設定した.	そして, それらをエンドポイントとする無影 響量 (NOEL) として 10 $\text{mg}/\text{kg}/\text{day}$ を導出し た.
131	11	幼鳥の生存率に関して	胚の生存率に関して
135	20	NOEC (底生生物) = $K_{\text{soil-water}} / RHO_{\text{sed}}$ × NOEC (水生生物)	NOEC (底生生物) = $K_{\text{sed-water}} / RHO_{\text{sed}}$ × NOEC (水生生物)
135	21	ここで, $K_{\text{soil-water}}$ (m^3/m^3) は底質/水分配 係数で,	ここで, $K_{\text{sed-water}}$ (m^3/m^3) は沈殿物/水分配 係数で,

頁	行	誤	正
136	1	底質の場合と同様に土壌の場合の 平衡分配法 も、	底質の場合と同様に土壌の場合も、
136	10	この値を発生源周辺の 底質 のスクリーニング評価に使用する。	この値を発生源周辺の 土壌 のスクリーニング評価に使用する。
140	36	本評価書では短鎖塩素化パラフィンの 感作性 は極めて低いと判断した。	本評価書では短鎖塩素化パラフィンが 皮膚感作性物質 となる 可能性 は極めて低いと判断した。
142	表 VI.3	文献 Hoechst AG 1986 ²⁾ Hoechst AG 1983 ²⁾	文献 Hoechst AG 1986 ¹⁾ Hoechst AG 1983 ¹⁾
157	20	懸念を考慮する必要 性 は ない ことが明らかとなった。	懸念を考慮する必要は 低い ことが明らかとなった。
157	28	懸念を考慮する必要は ない ことが明らかとなった。	懸念を考慮する必要は 低い ことが明らかとなった。
163	28	水系への排出 が最小限になるように対策を行うことを条件としている。	追加費用 が最小限になるように対策を行うことを条件としている。
201	15	IV-27,28 頁	表 IV-27,28
202	32	頁数の表記がない	VI-6 頁
203	19	頁数の表記がない	VI-6 頁
203	27	第 VI 章 に のコメント	第 VI 章 の コメント
207	3	図 III.3	図 III-3
221	19~21	Madeley JR, Thompson RS, and Brown D (1983a). Toxicity of chlorination paraffins to mussels (<i>Mytilus edulis</i>) over 60 days.(iv) Chlorinated psraffin – 58% chlorination of chain length <i>n</i> -paraffins, ICI Confidential Report BL/B/2291.	削除